

イチジクの簡易雨よけ栽培面積の拡大 ～生産安定と品質向上を目指して～

農業革新支援センター

【普及活動のねらい・対象】

イチジクは水田でも栽培し易く、早期に成園化ができる品目として推進してきました。しかし、約6割が露地栽培のため、降雨による果実品質や出荷量の低下が問題となり、安定生産に向けた雨よけ化が必要でした。そこで、革新支援センターでは、県内イチジク産地を対象に、平成28年度から生産者が取り組み易い低コストな簡易雨よけ栽培技術を確立し、今年度簡易雨よけ栽培の普及に取り組みました。

【普及活動の内容】

雨よけ栽培の普及率が低い甲賀地域や高島地域と併せて、県域（県果樹組合連合会イチジク部会）で研修会を開催し、「雨よけ化による品質や収量、収益性の向上効果」について説明しました。

また、市場担当者と連携して、天候に左右されない安定した品質・出荷量を確保できる産地づくりに向けて、簡易雨よけ栽培の推進を図りました。

さらに、今年度新たに米原市で簡易雨よけ施設の導入希望者があり、湖北地域での普及を図る展示ほかに位置付け導入を支援しました。

【普及活動の成果】

平成28年から取り組んだ結果、簡易雨よけ栽培は甲賀地域を中心に増加し、県内各地でも徐々に増えてきました。県全体では、雨よけ化率が43%（H27年）から52%（H30年）に増加し、雨よけ化の必要性についての理解が深まってきました。高島地域での雨よけ化率はまだまだ低いものの、JAや関係機関の意識は高まっており、次年度に向けて、若手栽培者や新規栽培者を対象に導入推進を検討される等、今後の面積拡大が期待されます。また、新たに設置した米原市の農家では、簡易雨よけ栽培を拡大される予定です。



写真 米原市で新たに簡易雨よけを設置

表1 簡易雨よけ栽培の導入面積の推移(a)

地域	29年度	30年度	31年度 (予定)
大津・南部	4.0	4.0	6.0
甲賀	13.2	43.9	43.9
東近江	1.3	1.3	1.3
湖北	0.0	6.0	8.0
高島	1.5	3.0	3.9
合計	20.0	58.2	63.1

表2 H30年の地域別雨よけ化の状況(a)

地域	栽培面積	うち施設		雨よけ化率 (%)
		うち施設	簡易雨よけ	
大津・南部	212	196.7	4.0	95
甲賀	150	18.0	43.9	41
東近江	196	128.2	1.3	66
湖東	40	32.0	0.0	80
湖北	53	12.7	6.0	35
高島	234	13.5	3.0	7
合計	885	401.1	58.2	52

◎対象者の意見

簡易雨よけ栽培を拡大していきたい（取組者A氏／甲賀市）。